

みんなで考えよう

札幌
社会福祉
フォーラム
2019

子ども・子育て支援!

～保育無償化で変わる、子育てと日本の未来～

参加無料

別途お申し込みが必要です

手話通訳・要約筆記
をご用意しています

無料の託児室を
ご用意しています
(事前のお申し込みが必要です)

とき

10月26日

時間

開場
12:30

講演時間

13:00-16:45

ところ

道新ホール

(札幌市中央区大通西3丁目道新ビル大通館8階)

●JR札幌駅/JR札幌駅南口より徒歩10分

●地下鉄/「大通駅」より徒歩3分

- 主催/札幌社会福祉フォーラム2019実行委員会(社会福祉法人ノマド福祉会、社会福祉法人はるにれの里、社会福祉法人浦河べてるの家、社会福祉法人札幌この実会)
- 共催/(株)メディカルシステムネットワーク
- 後援/北海道厚生局、北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、北海道社会福祉協議会、北海道民生委員児童委員連盟、札幌市社会福祉協議会、札幌市民生委員児童委員協議会、北海道新聞社、藤女子大学QOL研究所

当日のプログラム

座長 中村 秀一 氏 (一般社団法人 医療介護福祉政策研究フォーラム理事長)
(国際医療福祉大学 大学院 教授)

第1部 基調講演

13:15-13:55 40分

「子どもと若者をはぐくむ社会づくりに向けて」

～無子高齢化社会を超えて～

2018年生まれた子どもは約92万人。亡くなったのは約136万人。一年間で約44万人減ったことになります。これは一日当たりで見ると約1200人の減少ですが、20歳から64歳の現役世代は一日当たり約1500人減っていることになります。このように少子化が進む私たちの社会では、今後よりいっそう子どもたちと若者をどう育み支えていくか、ということが重要です。皆さまと一緒に考えていきましょう。

講師 前田 正子 氏
(甲南大学教授 元横浜市副市長)



第2部 様々な視点から

13:55-14:55

休憩 15分

15:10-16:10

30分×4講演

「保育行政の動向」

～内閣の看板政策を担って～

講師 竹林 悟史 氏
(厚生労働省子ども家庭局保育課長)



「少子化の加速と保育政策の行方」

～問われる子ども・子育て支援の質～

講師 吉田 正幸 氏
(保育システム研究所代表取締役 保育専門誌「遊育」発行人)



「地域で「おせっかいの輪」を広げよう!」

～地域を変える・子どもが変わる・未来を変える～

講師 栗林 知絵子 氏
(NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長)



「北海道は、子育て世帯にやさしいか?!」

～人口減少社会における出生と子育て環境を考える～

講師 五十嵐 智嘉子 氏
(一般社団法人北海道総合研究調査会理事長)



第3部 ジャーナリストの立場から

16:10-16:40

30分

「どうする!? ”国難の少子化”と育む力」

～育児困難を克服した国々から学ぶこと～

講師 榊原 智子 氏
(読売新聞教育ネットワーク事務局専門委員)



講師ご紹介

[講師]

前田 正子 氏 (まえだ まさこ)
(甲南大学教授 元横浜市副市長)

甲南大学マネジメント創造学部教授。大阪生まれ。早稲田大学教育学部卒業。男女雇用機会均等法施行前に就職。育児休業法施行前に出産退職。1992年から1994年米国ノースウエスタン大学ケロッグ経営大学院に家族で留学。帰国後は第一生命ライフデザイン研究所(現:第一生命経済研究所)で育児支援や保育政策を研究。慶應義塾大学商学部で博士号取得後、第2子の育児休業明けから横浜市副市長(2003-07年)として医療・福祉・教育を担当。横浜市国際交流協会理事長を経て2010年より現職。

[講師]

竹林 悟史 氏 (たけばやし さとし)
(厚生労働省子ども家庭局保育課長)

1992年 旧厚生省(現厚生労働省)入省
2003年～ 千葉県に出身し、障害福祉行政を担当
2006年～ 厚生労働省に復帰し、年金行政等を担当
2010年～ 厚生労働省及び文部科学省において、子育て支援を担当
2015年～ 介護保険行政を担当
2017年～ 年金行政を担当
2018年～ 現職(厚生労働省子ども家庭局保育課長)

[講師]

吉田 正幸 氏 (よしだ まさゆき)
(保育システム研究所代表取締役)
(保育専門誌『遊育』発行人)

1983年大阪大学人間科学部卒業。厚労省・社会保障審議会児童部会委員、同少子化対策特別部会委員、内閣府・認定こども園制度の在り方に関する検討会委員、経産省・保育現場のICT化検討会座長、神奈川県子ども・子育て会議委員、品川区区政アドバイザーなどを歴任。

[講師]

栗林 知絵子 氏 (くりばやし ちえこ)
(NPO法人 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 理事長)

2004年より池袋本町プレーパークの運営に携わり地域活動を始める。自他共に認める「おせっかいおばさん」である。地域の子どもを地域で見守り育てるために、プレーパーク、無料学習支援、子ども食堂など、子どもの居場所を点在化して、子どもと家庭を伴走的に支援している。東京都豊島区在住。同居する義母と夫、社会人1年生と大学生の2男は良き応援団。著書:「子ども食堂をつくらう!一人がにつながる地域の居場所づくり」(2016年、明石書店)

[講師]

五十嵐 智嘉子 氏 (いがらし ちかこ)
(一般社団法人北海道総合研究調査会 理事長)

札幌市生まれ。北海道大学大学院経済学研究科後期博士課程単位取得退学。昭和59年、北海道をフィールドとして調査・研究を行うシンクタンク「一般社団法人北海道総合研究調査会」(略称HIT)に研究員として入会。以降、調査部長、常務理事、専務理事を経て平成24年より現職。介護保険制度、高齢者ケアアセスメント等の推進に関する調査・研究、近年は、生活困窮者自立支援制度や、人口減少社会に関する調査・研究等に取り組む。平成26年8月から28年8月まで、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局に参事官として派遣。

[講師]

榊原 智子 氏 (さかきばらのりこ)
(読売新聞東京本社 教育ネットワーク事務局 専門委員)

1986年上智大学卒業。1988年同大学院博士課程前期修了(国際学修士)。同年読売新聞社入社。浦河支局、政治部、解説部、生活情報部の記者を経て、社会保障部次長、調査研究本部主任研究員。2019年6月から現職。社会保障や人口減少、少子化、子育て、女性などを担当。政府の社会保障審議会、社会保障制度改革国民会議、子ども・子育て会議、東京都の子供・子育て会議などの委員を務めた。著作に「早わかり 子ども・子育て支援新制度」(共著、ぎょうせい、2015年)、「昭和時代 一九八〇年代」(共著、中央公論新社、2016年)など。

当日販売商品

ノマド
福祉会

●さをり織り、藍染め、
刺し子、つまみ細工雑貨

はるにれ
の里

●パン、椎茸、石鯨、
こんにやくスポンジ、缶バッチ他

浦河
べてるの家

●昆布、書籍、DVD、
さをり織り、ノート

お申し込み用紙

お申し込み締切り日

2019年10月23日(水)

先着順ですのでお早めにお申し込みください。

●お申し込みはFAXまたはお電話・メールにてお願い致します。

※お申し込みは先着順に受付致します。入場整理券は発行致しません。

※満席となった場合はお断りのご連絡を差し上げますので、電話番号かE-mailアドレスのいずれかをご記入願います。

FAXにてお申し込みの方は

送信先FAX番号

FAX. **011-558-7062**

下記の該当する必要事項をご記入の上、送信してください。

フリガナ			
代表者ご氏名			
フォーラムご参加人数	名様	ご勤務先(学校)名	
ご住所(ご自宅・ご勤務先)	〒		
※ ご連絡先(お電話番号)			※ E-mailアドレス
無料 託児室ご利用の方 ●対象 0歳 (3ヶ月以上)～ 小学生 まで	●お子様の人数と年齢 (人) (歳 ヶ月) (歳 ヶ月) (歳 ヶ月)		事前申込必要 申込締切 10月16日(水) ※希望者多数の場合、スペースの関係上お預かりできない事がございます。

個人情報の取扱いについて

※個人情報は徹底した管理を行い、本フォーラム以外には使用しないことを固くお約束いたします。

お電話・メールにてお申し込み・お問い合わせ先

株式会社 メディカルシステムネットワーク **フォーラム事務局**

〒060-0010 札幌市中央区北10条西24丁目3番地 AKKビル4F

●電話によるお問い合わせ・受付時間 / 平日 9:00～17:00 ●担当/坂本、加茂

TEL **011-558-7061**  forum@msnw.co.jp

ホームページにもお申し込み用紙が掲載されています

●ノマド福祉会 <http://www.nomad-haru.com/>
●はるにれの里 <http://www.harunire.or.jp/>
●浦河べてるの家 <http://bethel-net.jp/>
●札幌この実会 <http://konomikai.jimdo.com/>

